

平成29年度 経営協議会学外委員等からの意見と対応状況

○経営協議会学外委員からの意見と対応状況

番号	経営協議会	学外委員等からの意見	本学の対応状況
1	第67回 H29.6.22開催	近年、外部資金の獲得が重要となっている。機関として大型研究費あるいは教育研究費を獲得する動きがますます活発化し、国もかなりの予算を用意している。学長が代表者となって戦略的に獲得していくことも視野に入れて、受託研究等の件数を伸ばすための努力をしてもらいたい。	外部資金の獲得策の一環として、平成29年度に科研費の獲得に向けた新たな「科研費獲得支援事業」を実施し、科研費申請状況に応じて研究費支援を行った。本事業については、平成30年度も継続して取り組むこととしている。
2		JAISTはどういう大学なのか、どういう方向を目指しているのか、というビジョンを明確に示して学外にアピールしてもらいたい。	平成24年3月に現在の理念・目標を制定してから6年が経過し、この間にミッション再定義や、第3期中期目標・中期計画の策定、研究科の統合などがあったことから、現在、学内において理念・目標の見直しの必要性について検討しているところである。
3	第68回 H29.9.21開催	金沢大学との融合科学共同専攻について、長期的な戦略性を持ち、大学院大学としてどうコミットし、他大学とどう協力して融合の範囲を広げていくのかという長期ビジョンを検討してもらいたい。 融合科学とは何かについて議論する教員同士によるワークショップ等の場を設け新しいものを生み出す努力をしてもらいたい。	融合科学共同専攻では、科学技術イノベーションに連関する複雑な社会課題の解決に向けて、既存の科学分野を超える枠組みの下で、“科学を融合する方法論”の探究・実践により、複数の科学分野の融合を促進させることとしている。こうした金沢大学との融合科学共同専攻を運用し、その成果を見極めつつ、長期ビジョンを検討したい。また、両大学による分野融合型研究を推進し、新しい技術や価値を創出するため、「融合研究推進会議」を設けており、両大学合同の研究交流会、ワークショップ、シンポジウム等の開催に向け検討することとしている。
4	第69回 H29.11.16開催	学生数が増加している現状を維持するため、学生の教育環境を魅力的なものにしていくことを全面に打ち出し、インフラを強化していく必要がある。これを学外にも強いメッセージとして発信してもらいたい。	学生増に伴い、職員宿舎の一部転用、近隣アパートの一部借り上げなど、新入生の学生寄宿舎への入居率向上のための方策を行った。あわせて、入居許可期間の見直しにより、早期に入居者数を把握することが出来、学生募集、獲得に貢献できる。 また、学生の通学等における利便性向上のため、大型バス1台を購入し、シャトルバスの運行サービスの充実を図った。
5		一研究科構想では、様々な分野を渡り歩いて勉強できるタフな学生を育てる教育面と境界領域的な新しい研究を行うという研究面があり、それをある程度の周期でダイナミックに見直すことが重要である。一研究科構想の現状と今後の見通しについて示してもらい、経営協議会で継続的に議論していくべきではないか。	変化の激しい先端科学技術分野のニーズに、真に対応した一研究科(全学融合体制)のカリキュラムに見直すため、平成29年度にカリキュラム改革WGを設置し、精力的に検討しているところである。平成30年3月15日に開催された経営協議会において、「JAIST教育改革実施スケジュール」を示し、これまでの取組や今後の取組を説明したところである。今後も、カリキュラム改革WGの検討状況を踏まえつつ、経営協議会に示したい。
6	第71回 H30.3.15開催	我が国にはエネルギー、資源、環境等の様々な課題があり、大学がものづくり、IoT、情報通信等の先端科学技術を進めてきた。現在は先端科学技術を進めなければいけない時代だが、それを進めるために日本人だけでなく、海外、特にアジアの優秀な学生をいかに増やすかが大事である。また、生産性を上げるためにAI、IoT等を利用する動きが出てきているが、その分野に詳しい技術者が少ないことがネックになっている。博士前期課程、博士後期課程の学生だけではなく、入社半年又は1年の社会人を養成すれば、より社会のニーズを満たせるのではないか。また、北陸3県の企業と協力し、人材育成を行っていただきたい。	平成30年4月に先端科学技術研究科教授会を開催し、学長から、「企業との連携による学生の研究指導と経済的及び就職支援」について説明があり、地域企業と連携したASEANからの博士前期課程学生や就職を前提とした博士後期課程学生に対する企業からの支援等について、教員と意見交換を行ったところであり、今後こうした企業との連携を進めていく予定である。

○アカデミックアドバイザーからの意見と対応状況

番号	アカデミックアドバイザーとの交流会	アカデミックアドバイザーからの意見	本学の対応状況
1	H29.2.20開催	東京サテライトと石川キャンパスの学生同士の交流の機会があるのか。	東京サテライトの社会人学生と石川キャンパスの学生が交流する機会を設けるため、「東京社会人学生と石川キャンパス学生の研究活動等推進交流事業」を開始し、学生及び教員の旅費等を本学が負担している。 平成29年度学生交流会実績： 石川開催 3件 東京開催 4件
2		全学的に大きな改革が行われているが、その理念が各教員に共有されているのか。	教授、准教授が一堂に会する全学教授会を、4月、7月、10月に開催し、執行部が今後の大学改革の理念等について直接教員へ説明する場としている。 また、監事からの提言もあり内部統制をより有効にさせるため、平成30年度から開催時間をこれまでの30分から60分とし、更なる全学への周知促進を図る。

○産業界の有識者からの意見と対応状況

番号	産業界の有識者と学長との懇談会	産業界の有識者からの意見	本学の対応状況
1	H28.12.9開催 及び H28.12.12開催 (東京サテライト)	留学生の採用に当たっては日本語コミュニケーション能力が必要であり、留学生に対する日本の文化・道徳・コミュニケーションの取り方などの教育をお願いしたい。	留学生への日本語サポートとして、初級～ビジネス日本語までの授業を開講している。また、日本文化研修として、日本の文化・風習の理解を深めるためのイベントを実施している。
2	H28.12.12開催 (東京サテライト)	博士前期課程の中間発表会へのインダストリアルアドバイザー等の参加について、専門分野を限らず、いろいろな方が参加できると良いのではないかと。	平成29年9月7・8日に実施した中間発表会は、専門分野を限定せずに、インダストリアルアドバイザーの方々に出席可能なプログラムについて自由にご参加いただける形で開催した。